



題字/ 故西尾邑次
元名誉会員揮毫

第 65 号

2021年3月5日発行
東京鳥取県人会事務局
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-3

都道府県会館10F

電話 03(5212)9178

FAX 03(5212)9079

発行責任者/吉田政雄

編集/県人会広報部会

https://www.pref.tottori.lg.jp/tokyokenjin/

コロナ禍の下での近況報告特集号

コロナ禍の影響で直接の交流の場が失われるなか、せめて紙面で交流できればと、昨年末お送りした『梨花』64号にコメント寄稿の願いを添付しました。それに応えて寄せられたお便りをすべて掲載。この状況下での県人会会員の皆さまの思い、暮らしぶりの一端をご紹介します。

会長挨拶

交流を深め、コロナ禍を乗り切る

東京鳥取県人会会長

吉田政雄 (鳥取市)



▲大山と朝日

©鳥取県

故郷の鳥取は、年末からの記録的な寒波による風雪の中で、文字通り「菓ごもり」の正月を迎えました。豪雪の被害の少なからんことを願っています。

年頭の新年賀詞交歓会の時には想定だにしていませんでしたが、昨年は新型コロナウイルスの世界的なパンデミックにより、コロナ禍対応に追われる一年となってしまいました。平井知事を先頭に周到なコロナ対策を敷いた鳥取県は、「コロナ対策の先進地」として全国の注目を浴び続けました。コロナ感染者が全国で一番少ない県ではありますが、それでも年末には感染者が三桁

となってしまいました。

コロナ禍は人々の価値観を反転させ、「3密の回避」「ソーシャルディスタンス」「非接触」等の人との交流を抑制する言葉が氾濫し、遠心力が世相を支配しました。昨年はベートローヴェン生誕250周年でしたが、「第九」の音色の乏しい寂しい師走となりました。

このような状況下、本年は県人会の新年賀詞交歓会も開催中止を余儀なくされました。現時点で日程が内定している行事は、春秋のゴルフの「因伯オープン」、そして未だ正式には幹事会に諮っておりませんが都市センターホテルで開催日で合意した「総会と懇親の集い」のみです。

広報部会の方々の篤志によって、この「梨花」特別号は発行されました。県人会会員の皆様同士の交流の場を、少しでも確保しようとの趣旨であります。皆様の近況紹介や関心事に加え、「新常态」下での県人会の運営についてのご意見やメッセージを期待しております。

「行動自粛」の制約がある中ではありますが、皆様から寄せられたご意見や叱咤激励を参考にしながら、先例にとらわれず本年の事業計画を提案してまいります。県人会設立の趣旨に沿うべく、昨年と比べて、本年は往来・交流・歓談の機会を少しでも多く確保したいと念じております。

本年も県人会活動へのご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

コロナで孤独な越年

東京鳥取県人会事務局局長

谷長正彦 (鳥取市)

私の今年の正月は、コロナの感染拡大の影響を受け、東京で越年せざるを得ませんでした。昨年、鳥取から家族が5人上京してきましたので、賑やかに過ごすことができず、寂しく感じました。実は、正月を東京で一人で過ごすのは初めてではなく、生涯で二度目の経験です。昭和58年、大学4年時の暮れに、中学・高校の同級生の山本睦男君が下宿していた西巢鴨のアパート(都電荒川線の庚申塚駅近く)に10日間ほど居候させてもらいました。

クリスマス頃に広島から新幹線で上京し、当時のコンサートのメッカ

だった新宿の東京厚生年金会館ホールでの某女性シンガーのコンサートや、山本君の大学の友人とのコンパにも参加させてもらったりしました。彼が河原の実家に帰省した中、私だけが彼の下宿に一人残って正月を過ごし、年明け4日に鳥取の実家に帰りましたが、59年はかなりの豪雪で、鳥取駅前では1メートルを超える積雪でした。

あれから37年の月日が流れ、お互い還暦が目前となりました。時の経つのは早いものだと実感するばかりです。最後になりますが、今年もコロナとの共生が避けられないでしょうが、県人会の皆さんとともに有意義に、そして楽しく過ごせたらと思います。どうぞよろしく申し上げます。(鳥取県東京本部長)

東京鳥取県人会事務局職員一同

鳥取県東京本部では、新型コロナウイルス感染拡大を受け、現在、在宅勤務の強化や一部職員を帰鳥させ鳥取県庁でのリモートワーク実施等による感染防止を図っているところであります。また、地元メディアの報道もありましたが、鳥取県の人口減少のスピードが早まっており、1万人減少するのに近年では3年から2年半を要していたところ、今回は2年

余りで減少する見通しであり、間もなく戦後初の54万人台に突入するようであり、引き続き鳥取県への移住促進や関係人口拡大に取り組みで参りますので、皆様のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



▲二十世紀梨の花と東郷湖

©鳥取県

●安酸庸祐(米子市)

「何となく、今年はいよいよある」とし、元日の朝晴れて風なし(啄木) 拗ねて・いじけて・暗い・啄木の作品の中で珍しくほつこりとした歌です。逆に言う「晴れて風がない」というささやかな吉兆に望みをつなぐほかなかつたのかも知れません。本年が良い年になりますように心より願っております。

●濱江 晋(鳥取市)

百才登頂 自賛 (編集部注) 濱江さんは1921年生まれ、今年100歳を迎えられます

●谷口芳三郎(河原町)

近くの笹目通りは銀杏並木で埋め尽くされている。師走の声を聞くこの頃黄ばんだ葉が日毎に木から離れて行くと故郷のお寺に鎮座する銀杏の木を思い出すのだ。その木の葉が梢枝に二、三枚になった頃「初雪が来るぞ」と祖母の言葉だ。果せるかな、旬日を待たずして雪はやって来た。今も変わり無いだろうか、故郷は幾つになっても懐かしい。

(編集部注) 谷口さんは1931年生まれ、今年90歳の卒寿を迎えられます

●小泉典子(境港市)

コロナ禍からの解放を心より願う令和3年が明けました。重苦しい毎日の中で、暮れに宝物を見つけました。私の誕生に寄せた祖父の句です。

手に乗せてもてはやされよ 福寿草 六十六阿柳

なんと私は今年八十二歳を迎えます。お笑ください。

●金子亮太郎(鳥取市)

お陰様で元気に喜寿を迎えました。ちなみに日本人男性の平均寿命は81・41歳(2019)です。次の目標は米寿を健やかに迎えることです。そのために「見えない敵 コロナ」に油断なく、自粛生活にめげず、日々ポジティブに過ごしていきたいと考えています。

ところで、「生活満足度」が高い都道府県ランキング(2020)で鳥取県が前年の45位から一気に5位に大躍進したこと(とっとり@東京インフォメーション第775号)は、まさに快哉!

県民の皆さまの取り組みとご努力に心から敬意を表し、お祝い申し上げます。

●萬治隆生(倉吉市)

一昨年から関与しているフリーピンからの介護技能研修生の紹介業務は、新型コロナ禍による人の移動の制限を受け停滞していましたが、停止されていたビザが11月になって突然発給され、11月29日に22人が入国することになりました。入国してから2週間のホテルでの隔離、その後監理組合が運営する研修所で所定の研修を終え、1月になって福岡、広島、岡山、米子、淡路、東京、群馬の各介護施設へ、逐次彼女たちを送り出しています。その間、ホテルにおける食事の手配や生活指導、研修所における研修状況の視察、各研修先との研修生受け入れに関する打ち合わせ、ZOOM会議等々、現役時代と変わらぬ年末年始と

会員からのお便り

順不同・敬称略・カッコ内は出身地など

なりましたが、コロナ禍に於ける厳しい生活制限の中、フリーピン人研修生たちのたくましさを感じている毎日です。

「政治漫画は顔をデフォルメするが、似顔絵はまず似ていることが大事」と強調します。

「政治漫画は顔をデフォルメするが、似顔絵はまず似ていることが大事」と強調します。

網の中国への依存度が、いかに高いかを思い知らされた。最後に、新型コロナウィルス禍で最も危惧しているのは、中国の覇権主義だ。

百田尚樹著の『カエルの楽園』を読んでハラハラしているのは私だけなのか。尖閣諸島は大丈夫なのか。いずれにしても中国共産党は、ほんに「よだきい」。

●足立盛二郎(境港市)

コロナによる「新しい日常」には困惑するばかりですが、たった一つ良かったと思えることは、私達にちよつとした「スローライフ」をもたらしてくれましたでしょうか。そこで私もこの際と思ひ、終活

●奥田真三(鳥取市)

新しい年が明けてどんと祭りの頃ですが、「どんど焼き」に思いを込めてコロナ禍の厄払いを、また今年一年の安寧をお願いいたしております。

●加藤雅子(倉吉市)

迷惑千万な武漢発の新型コロナウィルスが猛威を振るい、当たり前のように日常が消えてしまつた。こんな事態が、私の生きていくあいだに起こるとは想像だにできなかった。

NHK鳥取放送局は、12月の開局85年に向け、様々な特集番組やイベントを計画中です。本年も安心安全情報、地元を元気にするエールを発信します。

鳥取大学は昨年、コロナ禍により教育・研究・社会貢献、全てに大きな影響を受け、大学一丸となつてこの困難に立ち向かいました。これを機に、より魅力的な大学になりますので、これからも宜しくお願いいたします。

「嫁が君」三句

一つ家に住むも縁や嫁が君

わが部屋に入りしふしあり嫁が君

判決は処払ひよ嫁が君

嫁が君 新年の季語で三が日の鼠の忌み言葉

小谷 迪靖(倉吉市)

俳人協会会員 俳誌「航」元編集長

●三ツ國全代(鳥取市在住)

かわにしよしとさんのまんが似顔絵市民フォーラムの活動をしており、Twitterとホームページを開設しました。似顔絵制作の申し込みも受け付けています。https://manga-nigaoe.jindofree.com

●かわにしよしと(倉吉市在住)

読売新聞紙上に1991年の宮沢内閣発足から20年以上、政治漫画と似顔絵を提供した、かわにしよしとさんは

な息抜きになつている。3密を避け、窓を開放しているのが寒い。ハワイ気分とは程遠いのが残念だが仕方がない。緊急事態宣言が出された今、この楽しみも諦めなくてはならない。

政府の対策が後手後手に感じられる。国が強すぎて独裁国家になつても困るが、政府の機能が弱くて社会が右往左往しても困る。一方、この事態のなかで、日本産業の供給



▲浦富海岸

©鳥取県